

岐阜女子大学・大学院

大学院案内 2026

文化創造学研究科 通学・通信

文化創造学専攻

デジタルアーカイブ専攻

初等教育学専攻



写真：サギソウ（鸞草）

サギソウは岐阜女子大学の学花です

サギソウ花言葉

「繊細」「清純」「無垢」「しんの強さ」「神秘」「夢でもあなたを想う」「発展」

目 次

学長挨拶・岐阜女子大学大学院の特色	1
岐阜女子大学大学院のポリシー	2
文化創造学研究科 構成	3
取得できる資格	3
学修の方法	4
文化創造学専攻 日本文化分野（通学）／日本文化研究分野（通信）	6
文化創造学専攻 英語文化分野（通学）	8
デジタルアーカイブ専攻（通学・通信）	10
初等教育学専攻（通学・通信）	12
教員紹介	14
特色のある研究	17
よくある質問	19
キャンパス紹介	20

学長挨拶



〔学長 高口 努〕

文化創造学研究科は高度な専門知識と技能を身につけ、主体性を持って文化の伝承と創造に貢献し、次世代を育てる実践的な教育研究活動ができる人材の育成を教育目標としています。

本研究科では、文化創造学、初等教育学、デジタルアーカイブ学を講じていますが、特にデジタルアーカイブ学の分野においては、文部科学省の組織的な大学院教育改革推進プログラム、私立大学研究ブランディング事業に採択され、上級デジタルアーキビストの養成に取り組んでおります。また、こうした本学の学術的取り組みは、デジタルアーキビスト資格認定機構やデジタルアーカイブ学会の設立に大きく寄与しております。

知的好奇心にあふれ、主体性を持って多様な人々と協働して研究に打ち込める人、文化の伝承と創造、次世代の育成など、地域社会の発展に向けて行動できる人、働きながら学ぶ意欲のある人など、本研究科は広く社会人に開かれています。

岐阜女子大学大学院の特色

- 男女問わず入学できます。
- 社会人経験 3 年以上の人には、「社会人特別選抜試験」があります。
- 短期大学等卒業の人も入学可能です。短期大学等を卒業され、22 歳以上の人は、出願前に実施する出願資格事前審査に合格すれば出願することができます。
- 入学の時期は年に 2 回(4 月・10 月)あります。

通 学

- 本学では、働きながら学ぶことを支援しています。
その為に、土曜日・日曜日に集中講義を開講するとともに、遠隔教育を実施しています。

遠隔教育の方法

- 岐阜女子大学 沖縄サテライトキャンパス(沖縄県島尻郡与那原町)での受講
(岐阜女子大学と沖縄サテライトキャンパスをテレビ会議システムで結び双方向通信での授業を開講)
- 修士論文指導等の個別指導は、テレビ会議システムやインターネット等による双方向に通信で受けることができます。

通 信

- "いつでも" "どこからでも" 学修することができます。
- スクーリングは岐阜市の中心にあり通学が便利な、岐阜女子大学サテライトキャンパス 文化情報研究センター(岐阜市明徳町:岐阜駅から車で約 5 分・徒歩約 20 分)で土曜日・日曜日・長期休暇等を開講します。
なお、多くの方が同一地区での受講を希望される場合には、出張授業又はテレビ会議システムを用いた授業を土曜・日曜日・長期休暇等を開講する予定です。

岐阜女子大学大学院のポリシー



ディプロマ・ポリシー

｜ 修了認定・学位授与の方針

文化創造学研究科は、建学の精神に基づき、高度な専門的知識と技能を身に付け、主体性を持って文化の伝承と創造に貢献し、次世代を育てる実践的な教育研究活動ができる人材の育成を教育目標とする。この目標を踏まえた本研究科の教育課程を修め、必要な修了要件を満たした者に学位を授与する。



カリキュラム・ポリシー

｜ 教育課程編成・実施の方針

文化創造学研究科は、文化創造学・デジタルアーカイブ・初等教育学の三つの専攻において、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、多様化する現代の諸課題に対応できる実践力と専門分野における高度な研究力の修得を目指して、体系的なカリキュラムを編成する。

1 教育課程の編成

- ① 文化創造学専攻では、日本文化、英語文化（通信教育課程は除く）の2つの分野に共通する授業科目と分野に応じて、それぞれ、書道、国語、英語（通信教育課程は除く）に関する専修科目を配置する。
- ② デジタルアーカイブ専攻では、上級デジタルアーキビスト育成に関する実践的な教育・研究科目を配置する。
- ③ 初等教育学専攻では、幼稚園児及び小学生の育成に関する実践的な教育・研究科目を配置する。
- ④ 三つの専攻について、通信教育課程を編成する。
- ⑤ 研究能力の育成のため、修士論文特別研究を配置する。

2 教育内容・方法

- ① 文化創造学研究科は、文化創造学と初等教育学を実践的に学修し、それぞれにおいて、高等学校教諭専修免許（国語・英語（通信教育課程は除く）・書道）・中学校教諭専修免許（国語・英語（通信教育課程は除く））および小学校教諭専修免許・幼稚園教諭専修免許の取得可能な能力を養成する。
- ② 文化創造学研究科は、情報社会が求める上級デジタルアーキビストの養成を行う。
- ③ 入学時点で学生の指導教員を決め、実験・実習等に付随する諸問題に対して個別に細やかな研究指導を行う。
- ④ 通信教育課程の学生には、スクーリングを土曜日・日曜日・祝日等を実施する。

3 学修成果の評価

- ① 履修科目の学修評価は主にレポートで行い、研究能力の修得評価は実技などの取り組み状況、学内外の研究報告・発表（口頭、論文）で行う。
- ② 修士論文特別研究では、作成した論文と口頭発表について複数教員で評価する。
- ③ 以上の評価を総合して、修了の適否を判断する。



アドミッション・ポリシー

｜ 入学受け入れの方針

通 学

文化創造学研究科は、修了認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次のような学生を求める。

- 1 大学院での学修・研究に必要な基礎的専門知識・技能を有する人。
- 2 他者の考えを理解し、自分で考え判断し、自己の意見を表現できる人。
- 3 知的好奇心にあふれ、主体性を持って多様な人々と協働して研究に打ち込める人。
- 4 文化の伝承と創造、次世代の育成など、地域社会の発展に向けて行動できる人。

通 信

文化創造学研究科通信教育課程は、修了認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次のような学生を求める。

- 1 大学院での学修・研究に必要な基礎的専門知識・技能を有する人。
- 2 他者の考えを理解し、自分で考え判断し、自己の意見を表現できる人。
- 3 知的好奇心にあふれ、主体性を持って多様な人々と協働して研究に打ち込める人。
- 4 文化の伝承と創造、次世代の育成など、地域社会の発展に向けて行動できる人。
- 5 働きながら学ぶ意欲のある人。

文化創造学研究科 構成

	専攻	分野	
文化創造学研究科 (通学)	文化創造学専攻	日本文化分野	P 6～ 7
		英語文化分野	P 8～ 9
	デジタルアーカイブ専攻		P10～11
	初等教育学専攻		P12～13
文化創造学研究科 (通信)	文化創造学専攻	日本文化研究分野	P 6～ 7
	デジタルアーカイブ専攻		P10～11
	初等教育学専攻		P12～13

取得できる資格

1. 上級デジタル・アーキビスト

上級デジタルアーキビストは、情報社会における文化活動を支える専門職として、最新のマルチメディア技術、情報管理等についてのデジタルデータの収集・管理・利用・知的財産権管理等の知識を修得するとともにそれらの知識・技術を具体的に実践できる専門職です。

上級デジタルアーキビストの資格を取得するには、本学大学院を修了し、日本デジタルアーキビスト資格認定機構が認定する科目の単位を修得する必要があります。

2. 専修免許状

岐阜女子大学大学院で取得できる教員免許状は以下の通りです。

研究科	専攻	分野	免許状の種類	免許教科
文化創造学研究科 (通学)	文化創造学専攻	日本文化分野	中学校教諭専修免許状	国語
			高等学校教諭専修免許状	国語
			高等学校教諭専修免許状	書道
		英語文化分野	中学校教諭専修免許状	英語
			高等学校教諭専修免許状	英語
	初等教育学専攻	幼稚園教諭専修免許状		
		小学校教諭専修免許状		
文化創造学研究科 (通信)	文化創造学専攻	日本文化研究分野	中学校教諭専修免許状	国語
			高等学校教諭専修免許状	国語
			高等学校教諭専修免許状	書道
	初等教育学専攻	幼稚園教諭専修免許状		
		小学校教諭専修免許状		

在籍する専攻で取得できる教科の一種免許状を取得している方は、修士課程において「教科に関する科目、あるいは教職に関する科目」を24単位以上修得し、修士課程を修了することによって、専修免許状を取得することができます。

◆共通事項

- ① 大学院を修了するには、30単位【授業科目：13科目（26単位）・修士論文（4単位）】以上の修得が必要です。
- ② 授業科目：13科目（26単位）は、所属する専攻・分野の授業科目から8科目（16単位）以上を履修します。
残り5科目（10単位）以上を研究科の他の専攻・分野の授業科目から選択履修することもできます。
- ③ 必修科目の「修士論文作成特別研究」は1～2年次に4単位を履修します。

【修了に必要な単位数】

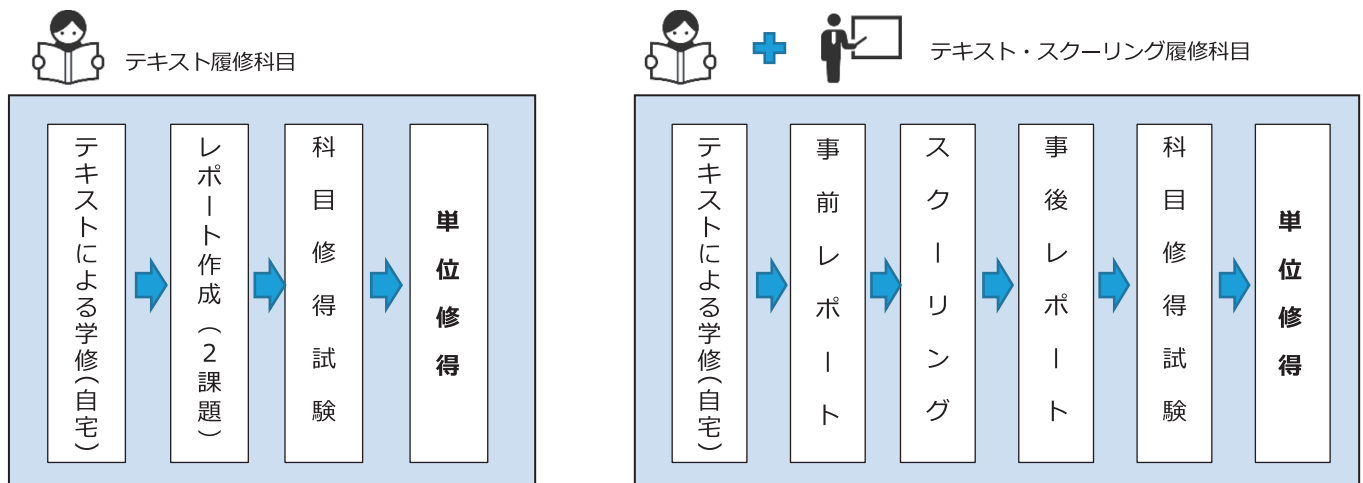
授業科目 13科目 (26単位)	+	修士論文作成特別研究 (必修科目) 4単位	=	30単位
---------------------	---	-----------------------------	---	------

通 学

- * 平日の授業のほかに、土曜日・日曜日や長期休暇期間中に集中講義を開講
- * 修士論文指導等の個別指導は、テレビ会議システムやインターネット等による双方向通信で受けることも可能
- * 一部の授業科目は遠隔教育にて受講
岐阜女子大学と沖縄サテライト校をテレビ会議システムで結び双方向通信での授業を開講

通 信

- * 通信教育課程の授業科目は、テキスト履修、テキスト・スクーリング履修のいずれかの形態で開講しています。



* メンター制度を実施

通信教育課程では入学後、院生一人ひとりにメンターが配置されます。
メンターは、履修方法や学修内容に関する学修相談を行います。

◆修了要件

2年以上在学し、定められた授業科目を30単位【授業科目：13科目（26単位）・修士論文（4単位）】以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。
ただし、特に優れた業績を上げた院生は、1年以上在学すれば修了することができます。

学修スケジュール（4月入学の場合）

年次	月		通 学	通 信
1年次	4月	入学式 新入生オリエンテーション	前期履修登録	前期履修登録（～4/15）
	5月			
	6月	指導教員の決定	授業 （平日・土日の集中講義）	課題レポート（課題1）提出
	7月			課題レポート（課題2）提出
	8月			科目修得試験期間
	9月		後期履修登録（9月下旬）	
	10月			後期履修登録（10/1～10/15）
	11月		授業 （平日・土日の集中講義）	課題レポート（課題1）提出
	12月			
	1月			課題レポート（課題2）提出
	2月	修士論文構想レジュメ提出		科目修得試験期間
	3月			

2年次	4月		前期履修登録	前期履修登録（4/1～4/15）
	5月			
	6月		授業 （平日・土日の集中講義）	課題レポート（課題1）提出
	7月	修士論文中間報告書提出		課題レポート（課題2）提出
	8月			科目修得試験期間
	9月		後期履修登録（9月下旬）	
	10月			後期履修登録（10/1～10/15）
	11月	修士論文中間発表	授業 （平日・土日の集中講義）	課題レポート（課題1）提出
	12月	修士論文草稿提出		
	1月	修士論文提出（1月20日）		課題レポート（課題2）提出
	2月	修士論文審査・最終試験		科目修得試験期間
	3月	学位記授与式		

＊ 4月に入学した場合のモデルケースです。

文化創造学専攻 日本文化分野(通学)

日本文化研究分野(通信)



「日本文化分野／日本文化研究分野」は日本語学、日本文学、東洋文化(漢文学)、文字芸術としての書道を研究する分野です。日本語学、日本文学、東洋文化(漢文学)及び書道の各分野における研究能力を高めることを主としますが、関連して、日本文学や東洋文化(漢文学)と書道の関係、日本語学と英語学との比較、日本文学や東洋文化(漢文学)と英米文学との比較についても理解を深め、日本語学、日本文学、東洋文化(漢文学)及び書道に関する高度の専門性を要する職業や教育職員専修免許に必要な幅広い知識と能力を持つ人材の育成を目的とします。

開設科目名	授業概要	通信
日本語学特講Ⅰ	日本語の歴史は、基本的には日本語を記した過去の文献を通して知る事が出来る。そのため、日本語の歴史を研究する事と、過去の文献を読み解く事とは、密接な関係にある。この授業では範囲を日本語音韻の歴史に限定し、過去の文献とそこから推定される音韻の歴史について考えたい。さらに、音韻の歴史に関する研究論文を読むことで一層の理解を深めたい。	T
日本語学特講Ⅱ	日本語学特講Ⅰに引き続き行う。日本語の歴史は、基本的には日本語を記した過去の文献を通して知る事が出来る。そのため、日本語の歴史を研究する事と、過去の文献を読み解く事とは、密接な関係にある。この授業では範囲を日本語音韻の歴史に限定し、過去の文献とそこから推定される音韻の歴史について考えたい。さらに、音韻の歴史に関する研究論文を読むことで一層の理解を深めたい。	T
日本文化特講Ⅰ	王朝女流文学者と現代アメリカの「ゴシップ・ガール」、近年の「もの書くアイドル」の相違と共通性を知ること、女性にとって「他者から憧れられる存在になること」と「書くこと」が、どのように結びついているかを考察する。また、娘義太夫や浅草オペラ、初期宝塚といった「戦前のアイドルたち」のありようを分析し、「近代日本の都市文化」と女性アイドルがどのようにつながっているかを浮かびあがらせる。	T
日本文化特講Ⅱ	戦後の芥川賞作品を検証することで、現代日本社会において、純文学小説の社会的地位がどのように変遷していったかについて概観する。そのことをつづて、現代日本社会における文藝ジャーナリズムのありようを、諸外国と比較しながら多角的に考察する。	T
日本文化特講Ⅲ	カルタ取りでお馴染みの『百人一首』を関連資料を参観しつつ読み解き、天智天皇から順徳院に至る 600 年の和歌史を展望する。	T
日本文化特講Ⅳ	鴨長明の『方丈記』を構想と表現にこだわって読み進み、作者の思想と生き方を明らかにしていく。その際、史・資料の扱い方についても解説する。	T
東洋文化特講Ⅰ	白話(口語)で書かれた古典小説である白話小説について、その概要を学ぶ。白話小説の代表的な作品として、『三国志演義』、『西遊記』、『水滸伝』、『金瓶梅』、『紅樓夢』が挙げられ、この授業でもこれらの作品について触れるが、この授業では、主に日本での知名度は前掲の五作品より落ちるが、限定的とはいえ、日本の小説や漫画などに影響を与えた文康作の『児女英雄伝』を取り上げる。	T
言語文化特講 ～日本語構造～	日本語と中国語の言語的な基本構造は異なっているものの、日本は中国との長期間の言語接触の間に中国語を積極的に取り入れてきた。中国語に由来する漢字音、文字は日本的に変容したものの日本の文化として取り入れられてきた。この授業では文字を中心に言語と文化の関係を考えたい。	T
書道特講Ⅰ	日本近世・近代書道史における、いくつかの重要なトピックスを取り扱う。①唐様書の興隆(江戸後期)、②新しい史料の流入とその影響(明治～大正)、③書道における用と美の分化(大正～昭和)、④文人の書と書家の書(昭和戦前～戦後)などについて解説しながら、今後の書道のあり方について考察する。	T

開設科目名	授業概要	通信
書道特講Ⅱ	主に殷・周時代～唐時代を扱い、常にその時代の歴史と文化を意識しつつ、文字を芸術として高めた数多くの能書家の活躍と名品を紹介し、文字の発生から各書体の完成までの流れを明確に理解する。	T
書道特講Ⅲ	中国書道史上に大きな足跡を残した王羲之と顔真卿。その二人の人物像、時代背景、書蹟などを学習しながらその偉大さを浮かび上がらせ、また二人が日本書道史にどのような影響を与えたかをみていく。	T
仮名特論	平安時代を頂点とする仮名は、単に墨と紙とに表現された文字群ではなく、線や連綿を含めた文字の姿、文字や文字集団が作り出す空間の美しさを表現している。この美しさのルーツ、華麗な料紙などを中心に学習する。	T・S
鑑賞特論	中国、日本の書の古典に関する多くの画像が刊行され、またインターネット世界における情報も夥しい量に上る。パソコンなどを使って多くの画像を自ら探して書道史の中に位置づけ、目と手で書の歴史を鑑賞理解する。	T・S
書道研究Ⅰ	日本における漢字仮名交じりの書の展開について、その内容と形式の変遷をたどる。また、近代の知識人は、手紙の書などをはじめとする、様々な漢字仮名交じりの書を遺している。それらのいわゆる「文人の書」に見られる書表現を分析し、私たちの漢字仮名交じりの書の制作に活用する方法について考察する。	T・S
書道研究Ⅱ	「時代」「人物名」「古典名」「図版」の知識修得だけではなく、書写材料・書写用具・書写面に注目して、用筆法＜側筆・直筆＞の変遷を合理的に捉えようとする。と同時に、その関連する古典の臨書をする。	T・S
書道研究Ⅲ	この授業では楷書・行書・草書の三体について取り上げる。代表的な古典の特徴を把握し、それを忠実に臨書することにより目標に近づけたい。	T・S
書写研究	小中学校「書写」の教育実践に必要な能力と素養を高め、教育内容を認識して、書写技能の修得から授業法までを学ぶ。また、揮毫場面を四方向一上・下・正面・左肩一から撮影したデジタル教材を作成する。	T・S
日本語学演習	コーパスの活用は、言語教育において、種々の効果をもたらす。現在では、硬い書き言葉からくだけた話し言葉まで、様々なコーパスが国立国語研究所のホームページで公開されている。それらを用いて用例を検索し、計量的に分析することによって、語彙・文法・表記など様々な観点から現代日本語の様相をとらえることができる。本講義では、コーパスを用いて計量的に分析した結果を言語教育に応用するところまで行う。	T・S
日本文化演習Ⅰ	日本文化史・日本文化論について書かれたテキストを演習形式で丹念に読みすすめ、日本文化について語るための基礎知識と思考力を養う。	T・S
日本文化演習Ⅱ	中古・中世の文学作品を古写本(影印本)で読むことを通して、変体仮名の成り立ちを理解するとともに、異本生成のメカニズムを体験的に学ぶ。具体的には、『古今集』などの勅撰和歌集、『枕草子』『更級日記』といった王朝散文作品、『平治物語』『平家物語』をはじめとする軍記物語、『無名抄』『建礼門院右京大夫集』その他の歌論書・私家集を読み解いていく。	T・S
東洋文化演習	返り点を付した司馬遷の『史記』を講読し、漢文講読に必要な訓読の知識、『史記』の基本知識を含めた中国の古典に関する知識を学び、同時に中国古代史への理解を深める。	T・S
書道演習	字を芸術として高めた数多くの中国および日本の名品を鑑賞し、その臨書(半紙と半切)の技能を深化させる。そして文字の発生から各書体の完成までの流れを明確に理解し、様々な表現に取り組む。	T・S

※ ＜通信開設科目＞ T・・・テキスト履修科目 T・S・・・テキスト・スクーリング履修科目

※ 授業概要については変更がある場合があります。

修士論文タイトル（抜粋）

- 藤原行成の書とその影響に関する研究
- 顔真卿の書による後世への影響について ～顔真卿の書の研究と古書に書かれた記述・評価より～
- 趙之謙書の研究―書風にみられる北魏書のスタイル―
- 八分における横画の起筆角度と波磔の関連性について ～木簡資料を用いて～
- 漢字仮名交じりの書に関する一考察 ～書表現の観点から考える自らの理念～
- 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』のテキスト分析
- 後拾遺和歌集のなかの和泉式部

文化創造学専攻 英語文化分野(通学)



「英語文化分野」は英語学、英米文学、英語コミュニケーションを研究する分野です。英語学、英米文学、英語コミュニケーションの各分野における研究能力を高めることを主としますが、関連して、英語と日本語との比較、英米文化・文学と日本文化・文学との比較、英語・英米文学・英語コミュニケーションの背景をなす英語圏の文化についても理解を深め、英語学、英米文学、英語コミュニケーションに関する高度の専門性を要する職業等に必要幅広い知識と能力を持つ人材の育成を目的とします。

開設科目名	授業概要
英語学特講Ⅰ	言語の意味と形式との関係を最新の文法理論の枠組みを用いて講義する。特に、英語の結果構文、中間構文、与格構文等を重点的に扱い、特に動詞の表す意味と、その動詞が現れる統語環境の関連について考察する。 この講義では、語彙意味論の分析の仕方をまず考察した後で、その問題点を指摘し、認知意味論の分析方法が前者より優れていることを示したいと思う。
英語学特講Ⅱ	英語学特講Ⅰに引き続き行う。言語の意味と形式との関係を最新の文法理論の枠組みを用いて講義する。特に、英語の中間構文、与格構文等を重点的に扱い、特に動詞の表す意味と、その動詞が現れる統語環境の関連について考察する。 この講義では、語彙意味論の分析の仕方をまず考察した後で、その問題点を指摘し、認知意味論の分析方法が前者より優れていることを示したいと思う。
英語学特講Ⅲ	この授業では、「言語と社会」という観点から、原書を通して理解を深めていく。受講生には、あらかじめ授業で扱う範囲を原書で予習してもらい、社会言語学に関する専門知識を解説した後、その問題点を考えていく。なお、英文で書かれているが、専門用語以外は簡単な英語で書いてあるので、英文を直訳する形での授業は行わない。
英語学特講Ⅳ	英語学特講Ⅲに引き続き行う。この授業では、「言語と社会」というテーマに関して、原書を通して理解を深めていく。受講生には、あらかじめ授業で扱う範囲を原書で予習してもらい、社会言語学に関する専門知識を解説した後、その問題点を考えていく。授業では、関連する分野、談話文法、差別語、翻訳、法廷通訳などについても適宜触れてゆく。
英語コミュニケーション学特講Ⅰ	この授業では、Oral Communicationに注目する。Berlo の SMCR モデルを通して、オーラルコミュニケーションの様々な側面を見る。また、映画を利用して、スピーチのようなフォーマルコミュニケーションとディスカッションのようなインフォーマルコミュニケーションの違いを分析し、話者の役割を探る。
英語コミュニケーション学特講Ⅱ	この授業では、Written Communicationに注目する。メディアの違いにより、文字によるコミュニケーションがどう変化するかを探る。主に、特定の相手(specific audience)に対する文章の書き方と、不特定の相手(general audience)に公表される文章の違いを分析する。最後に、広告に注目し、文の構造やイディオムなどの表現の使い方を検証する。
英語圏文学特講Ⅰ	この授業では、「identity」と、それが英連邦文学においてどのように描かれているか、またアメリカ人作家による作品とどのように異なるかを考察します。

開設科目名	授業概要
英語圏文学特講Ⅱ	この講座では、翻訳作品を検討します。正確性だけでなく、創造性と読みやすさの観点からも分析します。
英語圏文学特講Ⅲ	小説と紀行文学の歴史的背景を見てから、女性旅行作家に注目し、彼女たちがアジアを訪れた際、どのように日本や隣国を見たかを検証する。そして、20世紀初期と21世紀初期の作品を読み、比較する。
英語圏文学特講Ⅳ	“pioneer”をキーワードに、原住民(アボリジニーやネイティブ・アメリカン)や開拓者がテーマである作品を考察する。その後、英語圏の国々に移民した作家によるマイノリティー文学を探る。
文化学特講 ～日米文化の比較～	文化には、精神文化から生活文化まで、エリート文化から大衆文化まで多様な局面がある。それを類型化してしまうのではなく「生きた」相において動的に把握する。アメリカ及び日本の文化に焦点をあて、比較文化的な視点・視野を重んじ、英語文献などを読みながら具体的な検討をしていくことによって、創造的な文化研究に導く。
英語学演習Ⅰ	英語の結果構文に関する概説書で、この構文の特徴を理解した後で、英語の結果構文の最近の分析について深く考察する。 従来の語彙意味論における結果構文の分析を、Levin & Rappaort(2000)や Jackendoff(1997)に基づいて概略した後で、Usage-based Grammar にもとづく Boas(2004)の分析を吟味し、その問題点を探っていく。
英語学演習Ⅱ	この授業では、伝統文法の概説書をテキストとして使用しながら、英語の構造を探っていく。五文型などを英語教育の場で教える場合には、どのような方法が有益か。高校や中学校で教える英語文法を教育の意味は何か。また、比較的新しい分野である情報構造に基づいた教育は可能かなどを演習していく。
英語コミュニケーション 学演習	この授業は大きく二つのテーマに分かれる。前半では対話(Dialogue)を中心に扱い、後半にスピーチなどのMonologueを中心に扱う。Dialogueの中には映画を参考にしたものも含まれる。また、テレビのニュースやShakespeareの演劇及び有名な政治家の演説などを参考にしながら個々のスピーチ術を高めるよう努める。
英語圏文学演習Ⅰ	前期は、Mark Twain をはじめとするアメリカの「金メッキ時代」の作家たちの作品を取り上げる。後期は、Somerset Maugham をはじめとする戦前・戦後のイギリス作家の作品に焦点を当てる。
英語圏文学演習Ⅱ	この授業は大きく二つのテーマに分かれる。前半ではClassical Children's Literatureを中心に扱い、後半ではModern Children's Literatureを中心に扱う。即ち、Lewis CarrollやKipling から Roald DahlやJ.K. Rowling の作品を調べ、最近の移民やマイノリティー作家の児童作品と比較する。

※ 授業概要については変更がある場合があります。

修士論文タイトル（抜粋）

- 事例から見た第二言語習得の実態の調査研究
- 米文学と日本文学の中のカラスの象徴について
The Representation of Crows in American and Japanese Literature
- 音と文字がつながる授業 ～フォニックス、音韻認識による読む力を高める方法～
- 長良川鵜飼の観光イメージの変遷～英語版旅行ガイドブックを通して～
- Mark Twain and Australia

デジタルアーカイブ専攻(通学・通信)



社会の要請である上級デジタルアーキビストの人材養成に
 応えて、文化に関する知識、デジタルアーカイブ化を行う技
 術(撮影・保存管理・公開など)、法と倫理に関する専門知
 識の修得と、デジタルアーカイブをナレッジマネジメントに活用
 できる能力や具体的に実践できる人材の育成を目的とし、
 人文学の領域において、時代に即した新たな文化を再生・
 創造し、それらを広く伝達できる専門的職業人を養成しま
 す。とくに、学芸員、司書、教員等の資格とあわせ、伝統文
 化や言語文化、地域文化、図書館・博物館・文書館等の資
 料や文化的資源を専門的に取り扱う能力を育成します。

開設科目名	授業概要	通信
伝統文化特講	伝統文化に関する知識や理解をふまえたうえで、教育に関する分野の研究では教育基本法や学習指導要領に基づいた伝統文化の教材化とその利用について、文化情報あるいはデジタルアーカイブの開発研究に関する分野の研究では有形・無形文化財、伝統芸能、地域の文化活動撮影記録、管理保存、提示、活用に至るデジタルアーカイブの開発とその利活用などについて学修する。	T
地域文化特講	地域文化のデジタルアーカイブについて、文化の理解、撮影記録、保存(保管)、利活用などの各プロセスの概要を理解し、撮影方法や機材、記述のためのメタデータについて実践に即して考察する。最終的に身近な地域文化のデジタルアーカイブなどへの適用方法について学修する。	T
文化学特講 -日米文化の比較-	文化には、精神文化から生活文化まで、あるいはエリート文化から大衆文化、さらにはサブカルチャーと呼ばれるものまで、多様な局面がある。このような複雑な成り立ちの文化を抽象的に「文化」のひとつでまとめてしまうのではなく、日本とアメリカに生じてきたさまざまな文化現象、あるいは文化問題にそくして具体的に受け止め考察する。	T
社会言語学特講 -言語と社会-	人間は社会の中に存在している。社会とは人間と人間との結びつきであり、最も根本的な結びつきは言語を通して行われる。この授業では、言語を分析することにより、社会と人間の関わり、人間と人間の関わりを社会言語学の観点から見てゆく。そこでは、性別、年代の違いによる言語、差別語、外国語と母語、言語政策など、様々な視点から検討してゆく。	T
デジタルアーカイブ文化 政策特講	デジタルアーカイブ化の対象となる文化的価値の評価、デジタル保存・管理のための技術、法と倫理などの基本的な理論について国内外の事例を通じて修得する。また、最新のデジタルアーカイブ化に関する世界的動向と研究動向について調査し理解する。各省庁の資料、閣議決定等を参考に著作権法や「デジタルアーカイブ整備推進法」等法制度整備の方向性を理解し、考察する。	T
デジタルアーカイブ特講Ⅰ -ナレッジマネジメント(知的創造)-	デジタルアーカイブは、知的財産として過去から現代までのあらゆるデータを保管して次の世代へ伝承するとともに、国内外で流通し活用することで知的創造が可能であることから、知識基盤社会を支えるために重要な手段である。そこで、デジタルアーカイブの活用およびデジタルアーカイブを用いた知的創造である知の増殖型サイクルについて学修する。	T
デジタルアーカイブ特講Ⅱ -デジタルアーカイブ研究論-	知識基盤社会において、デジタルアーカイブについて責任をもって実践できる専門職であるデジタルアーキビストが必要とされている。そこで、デジタルアーキビストの学術的な基礎として、デジタルアーカイブに関する歴史から我が国の動向並びにデジタルアーカイブの課題を学ぶ。	T

開設科目名	授業概要	通信
デジタルアーカイブ特講Ⅲ -メディア論-	公文書の収集、保存、管理、利用を主たる目的として始まったアーカイブズは、その規模と対象が広がった。それぞれのアーカイブは独立して存在するのではなく、連携し情報の集合体・知識基盤としての様相を強めてきた。そこで、集合体としてのアーカイブ及び、いわゆる組織アーカイブや収集アーカイブに関して、メディア論の視点から、文化、教育、自治体、産業を考察する。	T
文化情報管理特講 -知的財産権等権利処理-	知的財産権等権利処理について、デジタルアーカイブ研究開発の側面から実践的な開発事例を通じて解説する。基本的な理解を踏まえ著作権、肖像権、プライバシー保護等のデジタルアーカイブに関わる権利処理の最新の動向を理解し、実践力を習得させる。それらをめぐる政策的課題を解説し、法制度等解決可能性を考察する。	T
人工知能特論	デジタルアーカイブと人間のように話す人工知能(AI)との一体化と利活用が求められる今日、新たなAI文化を知るためには、AIの過去・現在・未来について幅広く学ぶことが必須です。AI学習の根幹であるAI倫理と、デジタルアーカイブの真正性や利活用を考察し、教育分野でAIがどのように活用されるのか、AIと共生する未来を生き抜くための教育とは何かについて学修する。	T
アーカイブ研究Ⅰ -文化資料研究-	多様なアーカイブの中から教育学習資料に着目し、そのアーカイブ化について実践的に考察する。これまで、教育学習資料は人類の知的遺産の中から精選されたものを、教育内容や目的、発達段階ごとに編纂されてきたが、文化財のオープンデータ化が進展することにより、一次資料の利用が容易になっている。このような状況を踏まえ、教育学習資料を有効に活用するためにはどのように収集・記録・整理・保存していくべきなのかを考察する。	T・S
アーカイブ研究Ⅱ -MLA資料研究-	図書館、博物館、公文書館等デジタルアーカイブ提供機関において、対象資料の文化的価値の評価、デジタル保存・管理のための技術、著作権、肖像権、個人情報保護、プライバシー等に係る権利処理や倫理への対応など基本的な処理がどのように行われているかについて国内外の事例を通じて研究する。併せて、デジタルアーカイブ提供に関する国際的動向について調査研究し理解する。	T・S
アーカイブ研究Ⅲ -オーラルヒストリー研究-	オーラル・ヒストリーの歴史的背景と意義を理解し、各種事例からオーラル・ヒストリーのデジタルアーカイブ化のための記録プロセスとその留意点について学修する。最終的に、オーラル・ヒストリーのデジタルアーカイブ化の実践として話の記録およびコンテンツ化について演習を行う。	T・S
実践研究Ⅰ	デジタルアーカイブの理論・活用を、具体的に考究する能力を涵養する。最終的に、考究した調査研究の成果を論文としてまとめ、デジタルアーカイブ学会または日本教育情報学会等の開催する学会・研究会で発表し、社会に発信することによりデジタルアーカイブの振興に資する。	T・S
実践研究Ⅱ	デジタルアーカイブは、さまざまな分野で必要とされる資料を記録・保存・発信・評価する重要なプロセスである。今後、知識基盤社会においてデジタルアーカイブについて責任をもって実践できる専門職であるデジタルアーキビストが必要とされている。ここでは、デジタルアーキビストの学術的な基礎として、地域資源デジタルアーカイブに関する手法やデジタルアーカイブの課題を実践的に学ぶ。	T・S
文化メディア演習	文化情報には、文化財、文化活動など、有形のモノから無形のモノまで多種多様にあり、またそれらを固定する媒体も、静止画、動画、アニメーションなど様々である。そこで、それら各種メディアの特性を理解し、総合的な文化情報の管理、流通を行うための、撮影方法や処理方法について演習を行う。	T・S
デジタルアーカイブ演習	文化財・地域の文化活動など、文化に関する情報の記録・デジタル化・データベース制作およびメタデータとしての情報カテゴリーの構成、シソーラスなど、文化情報の管理・流通に関する演習を事例をもとに行う。さらに、岐阜女子大学文化情報研究センターで管理されている国内外の文化情報を用いて、高度なデジタルアーカイブ化のスキルを身につける。	T・S

※ <通信開設科目> T・・・テキスト履修科目 T・S・・・テキスト・スクリーニング履修科目

※ 授業概要については変更がある場合があります。

修士論文タイトル（抜粋）

- 竹箴製作のデジタル記録保存と伝承の可能性を探る-職人の技術の記録保存のケーススタディと課題の検証-
- 学びの個別最適化をめざす自律活用型デジタルコンテンツデザイン
- 埋蔵文化財出土情報のデジタルアーカイブ化に関する実践的研究
- 学校司書における資質・能力に関する実践的研究
- 地域資源デジタルアーカイブの活用研究～飛騨高山匠の技デジタルアーカイブの保管管理と活用に関する研究～

初等教育学専攻(通学・通信)



初等教育学専攻では、幼児・児童の教育実践に関わる学術諸分野と教育科学の総合的・学術的な教育研究を行うことにより、現代の複雑化する教育問題に対処できる見識と実践力を有するとともに、文化の情報化に関する技術を身に付け、より豊かな文化を創造し、それらを教育実践に還元できる「高度の専門性を持つ実践的な教員」の養成を目的とした人材養成をおこなっています。

開設科目名	授業概要	通信
教育実践特講Ⅰ ～初等教育～	学校教育は、人間形成の基盤を培うものであり、教師が担う役割は極めて重要であるという認識のもとに、初等教育段階における学習者の発達の過程を見通し学習指導計画を綿密に行い進める必要がある。初等教育の現状と課題や教師の活動の実際と問題点を追究し、児童が変化の時代を生き抜くために必要な様々な資質や能力を発達段階に応じて獲得し、向上していくように導く人間教育を効果的に進めるための理論の実践化と実践の理論化について考察し、自身の考えを創造する。	T
教育原理特講 ～初等教育～	戦後日本の教育改革のエポックに焦点をあて、教育理念、目的、内容、方法、制度に関わる基本資料・重要文献をとりあげる。原資料を読み解きながら、今日のエデュケーション問題の背景、文脈について理解を深め、新たな研究動向への関心を広げる。	T
教育心理学特講	教育心理学は、教育の諸問題を心理学的に研究し、心理学の知識や技術を教育に適用して、教育の科学化・効率化・教育効果の検証をはかろうとする学問である。教育心理学の研究領域や研究法を学び、教育心理学の基礎的事項(発達の基礎理論、知能、認知など学習に必要な能力の発達)と学習心理について理解する。また、授業の方法及び指導方法に生かす実践的活用法について追究する。	T・S
教育経営特講	教育のしくみとして「公教育」を、教育の歴史的な背景や流れとして「教育政策と学校教育」をそして、今日学校教育の運営の中で取り組まれている「マネジメント」を取り上げ、この3つの視点から学校における教育活動の運営や経営を探究していく。こうした学びをとおして、教育活動やその運営を動かしている「考え方」を見いだし、そこから、教育実践の意味、教育の方法の在り方を問い直すこととする。	T
学校経営特講 ～初等教育～	急激な社会変化に対応するため、学校教育には、従来の知識偏重型の学習から協働的な探究学習への移行が求められている。これに伴い、授業や学校組織の在り方にも変革が求められている。その変革を推進する鍵を握るのが、校長をはじめとする学校管理職のリーダーシップである。学校管理職は、求められる学力観や授業像を提示し、組織を新しい方向へ導く役割を担っている。本講義ではこのような認識のもと、「令和の日本型学校教育」実現のために求められる学校管理職の在り方、特に管理職の行動を支える資質・能力である知識と応用力のうち、応用力を中心に検討する。	T
教育課程特講 ～初等教育～	我が国のカリキュラムの歴史的な変遷を読み解き、現在のカリキュラムの特徴や課題を説明できるようにする。特にカリキュラム開発時の課題を国際セミナー報告より紐解くこと、木田宏教育資料よりカリキュラムや教科書制度の成立や問題点について考察していく。それらのことにより、これからのカリキュラムの在り方を考えていく。	T
教科教育法特講	これから先の変化の激しい社会を生き抜いていくために必要な資質・能力を子供が身につけることができるように、各教科に応用可能な教育の方法について、「インストラクショナルデザイン」の理論を基に学修をする。その理論を応用し、授業設計を行い、理論の実践化を図る。	T
教材開発特講 ～初等教育～	教育方法の多様化にともない、主体的な学習活動や共同学習での学習教材の構成、通信ネットワーク、遠隔共同学習でのマルチメディア教材利用とその教材内容の構成や流通、活用方法など教材開発の変化と今後の方向性について考察するとともに、新しいマルチメディア教材の具体例を実際に利用し、その活用について考察する。	T

開設科目名	授業概要	通信
教材開発研究 ～初等教育～	新しいデジタルアーカイブ機能を用いた、教材の開発を目的とした「情報源」として、実物、体験、印刷メディア、デジタルメディア、通信メディアの収集と、これらを用いた教師と学習者により選択利用ができるマルチメディア教材の開発と教育実践において適用した際の学習評価について理解する。	T
教育情報特講 ～初等教育～	教育に関する情報は、教育行政、教育経営、教科書、教材、学習者、学習指導法の資料から教育研究文献まで多様な資料で構成されている。これらの教育資料を整理し、利用し易い情報システムに構成するのが教育情報の大きな課題である。そこで、教育情報がどのような内容で構成されてきたか、検討する。	T
教育情報研究	本講座は、データの収集・整理・分析・可視化の基本的な手法から、教育データの具体的な活用例、さらにデータ倫理やプライバシーの重要性などを扱い、教育現場におけるデータサイエンスの基本的な知識とスキルを身につけ、実践的に活用できることを目指している。教員が日常の授業や学校運営において、データを効果的に活用し、より良い教育環境を構築するための基礎知識と実践力を養うことを目的としている。	T
カリキュラム開発 特講～初等教育～	今日的教育の在り方に主軸を置き、カリキュラムの概念や歴史、社会に開かれた教育課程の考え方等について学修するとともに、教師としての資質向上に必要な学習課題を設定し、それらの課題をカリキュラム開発の視点から検討する。	T
教育方法研究	学習の個別化を実現するためのCAIシステムとCAI教材の考え方や作成法を学ぶとともに、実際にフレーム型CAIシステムを用いて、目標分析と系列化、発問や問いかけと子供たちの反応からの学習状況推定、回答毎に用意する処方指導の手だてを精緻化するという、CAI教材の一連の作成プロセスを実施してみることとおして、授業改善の視点を獲得。	T
教育法規研究	教育基本法などの教育法規について、近代教育における教育法規の基本的な考え方、日本国憲法の教育の規定と基本的人権としての教育権、そして、スクール・コンプライアンスの観点から教育基本法などの教育関連法について考察する。特に、教育法規が求めている教育活動や指導の在り方を、学校の教育活動と教育課題（例えば、教員の在り方、いじめ、体罰など）から、教育権と学校の教育活動を教師の法的な責任と義務というアプローチで省察する。	T
教育方法特講Ⅰ・Ⅱ ～初等教育～	初等教育における教育方法は、子どもの発達に応じた柔軟な実践力によって展開される。それは教師の臨床的で実践的な固有の特徴と深く関わる。この視点から、授業の設計、教材の開発、授業の方法、授業の技術、授業の評価・改善を教師の授業認知力をコアに、自分の授業から学び取ることについて研究し考察する。特に授業をよりよく改善するための授業分析の方法について追究する。	T
遠隔教育特講	教育DX(Digital Transformation)時代における“新たな学び”とは、教師がデジタル技術を活用し、学びの在り方やカリキュラムを革新させると同時に、教職員の業務や組織、プロセス、学校文化を革新し、時代に対応した教育を確立することである。ここでは、教育DX時代における遠隔教育という“新たな学び”の在り方について考える。	T
幼児教育学特講	教員は、教育実践の場において証拠に基づく説明を求められることが多くなってきています。本特講が専修免許を目指す大学院の授業であることを踏まえて、このような求めに耐えうる教員の資質の涵養を目指します。そのために、幼児(他者)の心の理解も証拠(事実とその解釈)に基づくことが必要であること、子供たちの様々な心身の障害が証拠に基づいて説明されなければならないことを学んで、自らの子ども対応に活かしていくことを目指します。	T
臨床心理学特講 ～初等教育～	臨床心理学は、心の機能と社会環境との相互作用から生じている問題を理解し、解決の仕方を考える学問である。ここでは、問題に対処するための諸技法について講義と実習を行い、カウンセリングの主要なアセスメント、心理検査、面接法、内面理解などについて検討する。また、自殺、不登校、摂食障害など病理の理解を図り、心のあり様の理解および諸問題への対応について考究する。	T・S
教育相談研究	教育相談に関する基礎知識として、各理論、心理テスト、その他アセスメント方法、カウンセリングの理論の技法などについて学習する。 教育相談に関わる基礎知識・理論のほか、具体的な事例等をあげながら、教育相談の在り方や子どもの理解や関わり方などについて学修する。	T・S
教育実践課題研究Ⅰ・Ⅱ	本講義は教員として働き日々の実践を重ねる中で、今の自分にとって課題となることは何かを分析することから始まる。その分析は自身の授業をビデオで記録して、全ての言動を文字化することで行う。過去の教育研究等で明らかになっている理論を背景に、自身の授業を分析したことで明らかとなった課題を解決する方法を考案し実践し、再度その評価を行う。	T・S

※ <通信開設科目> T・・・テキスト履修科目 T・S・・・テキスト・スクーリング履修科目

※ 授業概要については変更がある場合があります。

修士論文タイトル（抜粋）

- デジタルアーカイブを用いた教科横断的なカリキュラム・マネジメントの基礎としての学びの方法
- 知的創造サイクルを用いた授業分析用の資料の作成と実践(1)～発問と発言、確認、繰り返し学習の必要性～
- 単元レベルの授業分析に関する研究～小学校算数「水のかさ」の単元を事例に～
- 小学校4年生わり算におけるくり返し学習の効果と支援
- メタバースを活用した遠隔協働学習の一試行

文化創造学専攻

日本文化分野／日本文化研究分野



[教授]

住川 英明

SUMIKAWA Hideaki

専門は、日本書道史学・書写書道教育学。書簡・原稿を史料とした筆跡研究や教育現場と連携した国語科書写の授業研究などを行っている。知的好奇心をもって深く考えることは、いま生きている瞬間を確かで厚みのあるものにしてくれるだろう。



[教授]

中根 安治(海童)

NAKANE Yasuji

殷～唐の古典を中心に、「書写材料」に着目して用筆法を探索し臨書研究をしている。また、揮毫場面を多方向(前・上・下・左斜上)撮影してデジタルアーカイブ化し、デジタル教材の開発にも取り組んでいる。



[教授]

森嶋 隆一(隆鳳)

MORISHIMA Ryuichi

王羲之を研究の柱に据えながら、羲之書法を受け継いだ北宋の米芾、明末清初の王鐸の二人に焦点を当て研究が続いている。特に王鐸の連綿草の美しさに魅せられ、その表現の為に研究の多くを割いている。



[教授]

弓削 繁

YUGE Shigeru

専門分野は中世文学。中でも歴史論書や軍記物語などを、文献学的研究をベースに、文化史、思想史を視野に入れつつ研究している。また、古文教育に関して、本文を生き生きと立ち上げらせる読みの方法を追及している。



[准教授]

石井 宏明

ISHII Hiroaki

中国語文法、中国語教育法、漢文教育について研究している。その他、中国・清代の小説『児女英雄伝』を中心に白話小説、江戸時代の唐話や唐通事、江戸時代における白話小説などの中国文学の受容などに興味を持っている。



[准教授]

入江 さやか

IRIE Sayaka

専門は、日本語学。特に音韻・語彙・表記を扱う。音素の分布、及び配列から日本語の特徴を捉えることを主なテーマとしている。最近では、音素の分布から、日本の各地方言を分類することに関心を持っている。

英語文化分野



[教授]

河原 俊昭

KAWAHARA Toshiaki

言語政策、英語教育、外国人への言語サービス、観光英語を中心に研究している。グローバル化が進む現代において、英語は世界の人々にとってどのような意味を持つか、社会言語学や言語学の視点から考察していきたい。



[教授]

山中 マーガレット

YAMANAKA Margaret

英語コミュニケーション学(特にライティング)と紀行文学を中心に研究している。現在、旅行ガイドや旅日記におけるパラグラフ・ライティングの構造とスタイルやそれを指導する教材開発に着目している。



[准教授]

樋田 光代

TOIDA Mitsuyo

小学校低学年から、中学校までの英語教育と小中連携の在り方をテーマとしている。現在は、言語材料の理解の促進と、それを基盤とした言語活動の充実、及び、発達段階に合わせた効果的な指導法について研究している。

デジタルアーカイブ専攻



[教授]

久世 均

KUZE Hitoshi

文化情報に関する総合情報システム、文化活動の記録方法の研究を進め、デジタルアーカイブ構成のデータベース、記録流通処理、基礎を指導している。また学習者の目的に応じた多視点映像教材の開発について研究し、デジタル教材の開発を研究している。



[准教授]

加藤 真由美

KATO Mayumi

デジタルアーカイブにおける資料の保存方法、提供方法について、特に、単体保管、集合保管、構成保管など、それぞれの方法の特性や適性を活かした資料構成の検討・研究を行っている。



[教授]

谷 里佐

TANI Risa

地域文化資料の総合的な調査・研究、またそれらの資料におけるデジタルアーカイブ化、とくに、資料の整理保存(保管)方法と博物館におけるデジタルアーカイブについての研究を行っている。



[准教授]

熊崎 康文

KUMAZAKI Yasufumi

地域資料のデジタルアーカイブとその利活用を研究対象としている。特に、デジタルアーカイブにおけるドローンの利活用を中心に、様々な分野で活用されているドローンの機能と利活用について考察し、実習を通じた研究を行っている。



[准教授]

櫛 彩見

ICHIKI Ayami

マルチメディアや画像処理を研究テーマとしており、あらゆる分野において、静止画、動画、音声などの様々な情報を活用した手法の提案や検討の研究を行っている。



[講師]

木幡 智子

KOWATA Satoko

学校図書館活動の活性化について、制度、施設、人、環境、連携など様々な要因から多面的に考察し、理想を求めるのではなく現状から学校図書館をよりよくする方策について研究を行っている。



[准教授]

江添 誠

EZOE Makoto

考古学発掘調査で出土した考古資料を3次元で測量、記録し、アーカイブすることで、3次元データが歴史の解明にどのように寄与するのか、博物館の展示資料としてどのように活用できるのかについて実践的な研究を行っている。



[講師]

林 知代

HAYASHI Tomoyo

情報とメディアの活用をテーマに、地域資料を中心としたデジタルアーカイブの構築、データベース構成、印刷物とデジタルメディアの関係、デジタルアーカイブの教育活用について研究を行っている。



[准教授]

加治工 尚子

KAJIKU Naoko

地域素材(自然・伝統文化・伝統芸能など)のデジタル記録を中心としたデジタルアーカイブの構築と提供について研究を進めている。とくに、沖縄地域の文化活動やオーラルヒストリーの記録を対象とした調査・研究を行っている。

教員紹介

初等教育学専攻



[教授]

大井 修三

OI Shuzo

学習心理学、発達心理学を中心に教育実践における様々な課題を、心理学的手法を用いる科学的な分析、成果の応用によって解決することを目指し、身近に見られる現象に課題を見つけ、自ら解決することを可能にする手法を身に付けていくことを目標としている。



[教授]

高橋 正司

TAKAHASHI Masashi

主な研究領域は、教育行政学、学校経営学。教育行政、特に戦後、我が国の地方教育行政を担ってきた教育委員会制度（旧教育委員会法下、現行地教行法下）について研究を行っている



[教授]

三尾 寛次

MIO Kanji

専門は、教育経営学。学校目標を具現化する効率的な学校経営や教育活動におけるマネジメントなどを研究テーマとしている。特に、学校が抱えているいじめ、小規模化などの学校課題や防災教育、キャリア教育等の側面から教育成果を上げるマネジメントの在り方について研究指導を行っている。



[教授]

村瀬 康一郎

MURASE Koichiro

ICTを活用した授業改善・教材開発について、および児童生徒や教員がネットで情報活動する上で求められる情報モラル、著作権、個人情報・プライバシーに関する教育について研究している。学校の情報セキュリティ・個人情報保護対策にも関心を持っている。



[教授]

森 洋子

MORI Yoko

幼児期・学童期の「子どもの健全育成」にかかわる研究を進めています。子どもの成長を、福祉面・学習面の双方から見て、家庭・地域社会・学校の連携のあり方、ヒトから人に成長していくための人的環境を視点に、追究しています。



[教授]

横山 隆光

YOKOYAMA Takamitsu

「ICTを活用した教材開発と学習効果の測定、学校を基盤とした情報モラル教育、メタバースを拡張するための技術要素(3Dモデリング・VR・モーションキャプチャー・AIなど)の活用」を行っている。



[准教授]

齋藤 陽子

SAITO Yoko

専門は教育工学・教育方法。教育をシステムの捉え、如何に効果的に魅力的に行えるかを追究している。その中で、過去の教育実践・資料(教育リソース)を現代の教育課題解決に活用する方法や、教育DXを基盤とした新たな教育方法とは何かなどを研究し、新たな学習観を追究している。



[准教授]

佐々木 恵理

SASAKI Eri

専門分野は心理学で、メンタルヘルスやストレスマネジメントに関する研究を行っている。また、教育の場における諸過程を質問調査や行動分析等の手法を用いて評価し効果的な教育の方法を見出すための研究指導を行っている。



[講師]

眞喜志 悦子

MAKISHI Etsuko

デジタルアーカイブ素材の選定評価として多くの課題があるオーラルヒストリーを例にして、選定基準の構成とその内容についての方向性を検討している。

また、過去のデジタルアーカイブから選定された、教師の教育実践に役立つ資料を手引きとして開発し、それを用いた実践結果とあわせて“新しい知”として保管・利用する方法や、総合的な評価方法の研究も行っている。

国際的視野にもとづく日本文化・現代書研究

住川英明 中根安治(海童) 森嶋隆一(隆鳳) 弓削繁 石井宏明 入江さやか

概要

日本及び東アジア漢字文化圏を視野に入れ、それらの比較研究を通じて日本文化の基礎を明らかにする。また、古典から近現代にいたるまでの日本文化を、国際的な視野から把握し、その特質を考究する。
王羲之を研究の柱に据え、人と書の相関関係を調査研究して、現代書のあるべき姿を研究する。

事例

- 東アジア漢字文化圏全体を見渡す東洋古典学・文化学の構築
- 中国古典文化と日本古典文化の比較および影響関係の研究
- 村上春樹文学を軸とした、現代日本文化の国際的受容状況研究
- 現代日本のポップカルチャーと前近代文化の関連性の研究
- 鐵齋の書—その魅力—の研究
- 羲之書法を受け継いだ米芾・王鐸の連綿美の研究
- 「仮名」入門期におけるデジタル教材の開発

英語圏の言語文化の研究

河原俊昭 山中マーガレット 樋田光代

概要

英語圏の語学と文化を、英語学、英米文学、英語教育の各視点から複眼的に研究していく。また、日本語や日本文化との比較を行い、対照言語学や異文化理解に関する理解も深める。

事例

- 語彙意味論、認知言語学、対照言語学(日米比較)の研究
- 語源を利用した学習法、イメージスキーマによる基本語学習法の開発研究
- 英語圏を中心とした文学や文化研究(アメリカ、イギリス、オーストラリア)
- 日本の民話や紀行文等の翻訳を実践することで翻訳法の開発研究
- 語用論の視点からのコミュニケーションの実態の研究
- 広告分析による効果的なコミュニケーションの研究
- 異文化理解、異文化交流の実態の調査研究
- 英語教育の最新の教授法の実践的な研究(CEFR の理念の活用)
- 言語政策や World Englishes による英語教育法の研究開発

デジタルアーカイブ研究

久世均 谷里佐 櫛彩見 江添誠 加治工尚子 加藤真由美 熊崎康文 木幡智子 林知代

概要

文化財、地域の文化活動、伝統文化等に関するデジタルアーカイブの開発研究に加え、デジタルアーカイブ開発のプロセスに存在する文化資料の価値判断と評価選定、記録と保管、著作権等知的財産権、利活用と評価改善等に関して研究する。

デジタルアーカイブの専門性についても、教育、博物館、図書館、伝統文化等の視点から学修する。

事例

- デジタルアーカイブを中核とした実践的教育情報システムの研究
- マルチメディアや画像処理等、デジタルアーカイブの基礎研究
- 博物館におけるデジタルアーカイブ研究
- デジタルアーカイブ構成のデータベース、記録流通処理の基礎研究
- 授業実践の記録と分析(授業アーカイブと授業分析)の研究
- 揮毫場面の多方向撮影による書のデジタルアーカイブ化に関する基礎研究
- 地域資料等の選定評価・保存・提示に関する研究
- 企業アーカイブや大学アーカイブ等、組織アーカイブに関する基礎研究
- デジタルアーカイブと教材開発

地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点研究

久世均 谷里佐 櫛彩見 江添誠 加治工尚子 加藤真由美 熊崎康文 木幡智子 林知代

事業内容

地域に根差し地域社会に貢献する大学として、本学独自で育んできたデジタルアーカイブ研究を活用し、地域資源のデジタルアーカイブ化とその展開によって、伝統文化産業の活性化などの地域課題の実践的な解決や新しい文化を創造できる人材育成を行い、地域の知の拠点となる大学を目指す。

事例

- 飛騨高山の匠の技デジタルアーカイブと伝承文化産業の振興
郡上白山の伝統文化の調査、建造物、建築物群の歴史的・文化的価値の調査並びに白山信仰の三馬場の調査を綿密に行い、デジタルアーカイブ研究により新たな観光資源の発掘を支援する。
- 郡上白山文化遺産のデジタルアーカイブと新たな観光資源の 発掘
伝統文化産業(飛騨春慶・一位一刀彫など)をデジタルアーカイブ化し、歴史的な視点を総合的にまとめ、さらに匠のこころのオーラルヒストリー化により「知の増殖型サイクル」を構成し、これらの一部を海外に発信することにより伝統文化産業の振興を図る。
- デジタルアーカイブ研究の拡充による地域創生イノベーションの創出

教育方法研究

齋藤陽子 横山隆光 佐々木恵理

概要

教授方法、教育内容、カリキュラム、教育評価、授業実践の分析、教師教育に関する研究を行う。
また、情報通信技術(ICT:Information and Communication Technology)を活用した授業構想の在り方について研究を行う。小・中・高・大における教育に ICT を取り入れ、学習者が主体となった学習を展開するための授業・環境構成、効果とその評価について研究を行う。

事例

- 教師の力量形成を技能発達の視座から研究
- 初任者から熟達者に発達する様相について、教師の授業実践を対象にした研究
- 教員の授業実践を授業記録から分析し、省察していく研究
- 教育の場における諸過程を質問紙調査や行動分析等の手法を用いて評価し効果的な教育の方法を見出すための研究
- 英語・国語教育の分野における教授法の研究
- 一人一台のタブレット端末を用いた学習方法の効果に関する研究
- 学習者が主体となった学習、アクティブ・ラーニングに関する研究
- ICT 機器を効果的に活用することによる反転学習の方法並びにその効果に関する研究
- 教育の情報化に対応した、協働的な学びに関する研究
- 地域と地域を結んだ遠隔交流学习に関する研究

学力向上研究

横山隆光 齋藤陽子 眞喜志悦子

概要

本研究分野では、学力の3要素の中の基礎的な知識・技能の修得を中心にした研究を行う。本学カリキュラム開発研究所には、学力向上に関する50年間の基礎データが蓄積されている。基礎データを活用した本学大学院生の実践研究により、全国学力・学習状況調査で、全国平均に達しなかった算数 A を3年間で全国トップの秋田県を上回る正答率とした小学校も現れている。

事例

- 繰り返し学習の内容、回数、機会、タイミング、教師の関わり方等の研究
- 学力の定着を図る授業の構造の研究
- 学力の定着を図る授業改善の研究
- 学力の定着を図る指導力の向上の研究

<共 通>

- Q. 男性ですが入学は出来ますか？
A. 男女問わず、入学出来ます。
- Q. 年齢制限(上限)はありますか？
A. 年齢の上限はありません。
大学院には幅広い年齢の院生が在籍しています。
- Q. 教育職員免許状を持っていないのですが、専修免許状を取得できますか？
A. 専修免許状を取得するには、1種免許状を取得していることが原則となります。
- Q. 取得できる資格はありますか？
A. ① 上級デジタルアーキビスト資格が取得できます。
② 3頁の専修免許状が取得できます。
(詳細はお問い合わせください)
- Q. 修士論文は必修ですか？
A. 本学では修士論文(修士論文作成特別研究)は必修科目となっております。
院生は研究指導担当の教員から、研究指導(修士論文を作成するための指導)を受けることになります。
- Q. 研究の指導教員を指定することはできますか？
A. 指導教員を指定することは出来ません。
出願時に提出した研究計画書により、研究指導を実施する上で、本学が最適であると判断した教員を充てることとしています。
指導教員は、入学から2ヶ月程度で決定予定です。
- Q. 修業年限は何年ですか？
A. 標準修業年限は2年です。
最長在学年限は4年です。
4年(最長在学年限の2倍)を超えて在学することはできません。
- Q. 大学院を修了した場合、授与される学位は何ですか？
A. 大学院において授与する学位は修士です。
・文化創造学専攻:修士(文学)
・デジタルアーカイブ専攻:修士(文学)
・初等教育学専攻:修士(文学・教育学)
- Q. 入学時期はいつですか？
A. 入学時期は年2回、4月と10月です。
- Q. 修了は3月だけですか？
A. 大学院修了の時期は年2回、9月と3月です。

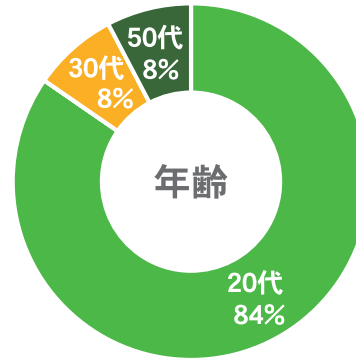
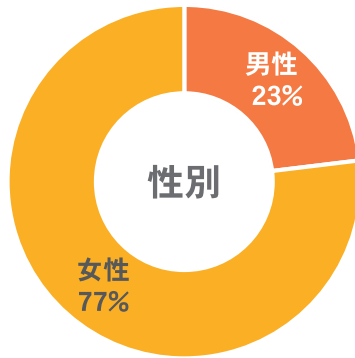
<通 信>

- Q. 遠方に在住していても学修できますか？
A. 可能です。
スクーリング科目を除き、原則として在宅で学修を進めることができます。
- Q. 科目修得試験はどのように実施されますか？
A. 現在、テキスト履修科目の科目修得試験は、すべてレポート試験です。
2つの課題合格後にレポート試験課題をご自宅に郵送いたします。
- Q. スクーリング科目は、必修ですか？
A. スクーリング科目はすべて選択科目です。必修科目ではありません。
ご自身の学修計画に合わせて、履修科目を選択してください。
- Q. スクーリングはいつ頃開講されますか？
A. 科目毎に日数・日程は異なりますが、基本的には週末(土曜日・日曜日)を中心に開講しています。
日程は、学期のはじめ(4月、10月)に告知します。
科目によって、開講年度(毎年開講・隔年開講)、開講日数が異なります。
- Q. 論文指導のため通学する必要がありますか？
A. 論文作成過程において指導教員から3回以上の面接指導を受けることが必要です。
指導教員決定後、指導教員と論文作成について相談をしていただくことになります。
- Q. 学費に教科書代金は含まれていますか？
A. 含まれていません。
原則、ご自身で指定教科書を書店等で購入(準備)していただくことになります。
1科目2,000円～3,000円程度の教科書です。
- Q. スクーリング受講料は別途必要ですか？
A. スクーリング受講料は、学費に含まれています。
但し、スクーリングに関わる、旅費、宿泊費、入館料等は各自でご負担していただくことになります。
- Q. 海外に在住しています。入学は可能ですか？
A. 入学は可能です。
1. 本学からの全ての送付物の宛先は、日本国内の連絡先(中継先)となります。
出願は日本国内での確実な連絡先(中継先)を確保できる方に限ります。
2. 海外在住であっても、すべて国内在住者と同様の取り扱いになります。
書類提出期限等の延長などといった特別な配慮はおこないません。

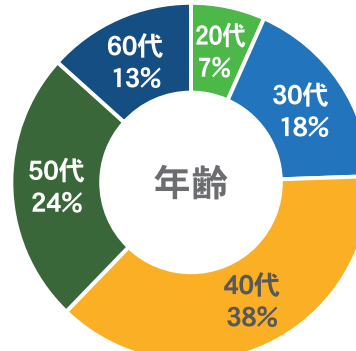
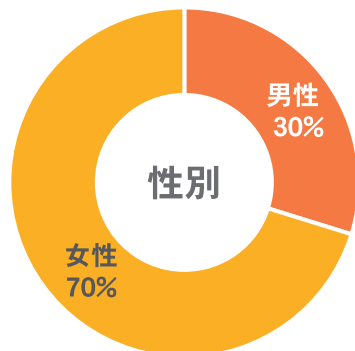
在学生の状況

2025 年 12 月現在の在籍者

通 学



通 信



キャンパス紹介

岐阜女子大学 本部

岐阜市の北に位置し、自然に囲まれた広いキャンパスは、学修に集中できる最適の環境です。
本部事務局・大学図書館・ラーニングcommons等、最新の設備や多様な学びにあった施設を完備しています。
院生(通学)は平日にここで講義を受講しています。

〒501-2592 岐阜県岐阜市太郎丸 80 番地

電 話 (058) 229-2211 (代)

F A X (058) 229-2222

入試のお問合せ 0120-661184 (入試広報専用)

ホームページ <http://www.gijodai.ac.jp/>

【附属研究所】

カリキュラム開発研究所



岐阜女子大学サテライトキャンパス 文化情報研究センター

岐阜市の中心部にある本学の文化情報発信拠点。大学でこれまで調査、研究、管理してきた文化情報のデータ化や、様々な情報流通手段を活用した文化交流の研究を推進しています。またデジタルミュージアムを運営し、地域社会への情報発信も行っています。

土曜日・日曜日や長期休暇期間中に集中講義を開催しています。

〒500-8813 岐阜県岐阜市明徳町 10 番地

杉山ビル 4 階

電 話 (058) 212-3257

F A X (058) 212-3258

E メールアドレス tsushin@gijodai.ac.jp

【附属研究所】

デジタルアーカイブ研究所



岐阜女子大学 沖縄サテライトキャンパス

平成 21 年 2 月より沖縄女子短期大学と姉妹校提携し、沖縄サテライト校が誕生しました。これにより、短期大学から大学院まで連携したカリキュラムを編成し、幼稚園や小学校、その他様々な現場で働きながら大学院での学修ができる体制を整えました。

沖縄の伝統文化に関するデジタルアーカイブの研究・開発をはじめ、教師力向上のための資料の見方・考え方の処理、授業の計画から実践・分析・評価までの体系化など、多様な研究を行っています。

テレビ会議システムを用いた遠隔教育により、他会場の院生とも交流しながら学びを深めています。

〒901-1304 沖縄県島尻郡与那原町東浜 1 番地

沖縄女子短期大学内 2 階

電 話 (098) 943-9705

F A X (098) 943-9706

E メールアドレス okinawa@gijodai.ac.jp

【附属研究所】

沖縄カリキュラム開発研究センター





岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科